

【瀬谷区】令和 8 年第 2 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 8 年 6 月 11 日 15 時 00 分 ～ 17 時 15 分
場 所	瀬谷区役所 5 階大会議室
出席者	【座長】花上喜代志議員 【議員：2 名】川口広議員、久保和弘議員 【瀬谷区：3 5 名】山岸秀之区長、富永裕之副区長、 木村洋福祉保健センター長、 野田晴子福祉保健センター担当部長、 坂口堅章瀬谷土木事務所長、 日比野徹災害対策担当部長（瀬谷消防署長） ほか関係職員
議 題	1 令和 8 年度瀬谷区運営方針について 2 令和 8 年度個性ある区づくり推進費自主企画事業の執行状況について 3 その他報告案件
発言の旨	<議題 1・2> 【川口議員】会議室に展示しているトUNKトUNKについて説明して欲しい。 【正田区政推進課長】現在展示しているトUNKトUNKにつきましては 5 月末に作製いたしました。従来は空気で膨らませるバルーン仕様のものもありましたが、向きが安定しない課題があったため、新たに形状を整えたものを作製しています。瀬谷区としても開催地元区であることから作製し、今後は地域イベントやフォトスポットとして巡回展示させながら、広く活用していきたいと考えています。 【川口議員】普段はどこに設置しているのか。 【正田区政推進課長】現在は区役所 5 階に設けたフォトスポットに設置しています。 【川口議員】トUNKトUNKの着ぐるみについて、地域のお祭り関係者から「着ぐるみを呼べないか」という声がある。権利関係等もあると思うが、現状の整理についてはどうなっているのか。

	【正田区政推進課長】トUNKトUNKの着ぐるみは、公益社団法人 2027 年国際園芸博覧会協会が所有しており、今年 3 月に貸出基準が示されています。使用できるのは協会や公式参加者、出展者、協賛者、自治体など一定の条件を満たす団体であり、関連事業であることが求められています。瀬谷区としては申請により使用可能ですが、地域団体単独での使用は難しい状況です。区との共催事業など、区役所と地域団体が一緒に開催するイベントであれば対応可能です。また、アクターやディレクターを含めた手配が必要で費用も発生するため、費用対効果を見極めながら検討してまいります。 【川口議員】着ぐるみの数はどのくらい用意されているのか。 【正田区政推進課長】正確な数は把握していませんが、現在は協会が所有しています。今後は局でも作製し、市の行事などで活用しやすくする検討が進められていると聞いています。 【川口議員】局で作製するのであれば、ぜひ瀬谷区で活用しやすい仕組みを整えて欲しい。 続いて、現在の横浜グリーンエキスポに向けた機運醸成について、昨年度と比較して、区長の感触を聞きたい。 【山岸区長】着任から 1 年余り経ちましたが、昨年と比べると機運は確実に高まっていると感じています。地域や企業だけでなく、トUNKトUNKのグッズを身に付けて PR したいと言ってくれる職員も増えてきました。肌感覚でも、開催地元区として機運はかなり高まってきていると感じますので、今後は機運醸成に加え、来場促進にもどんどん力を入れていきたいと考えています。 【川口議員】現在、把握している課題で、この場で共有できるものがあれば教えてほしい。 【山岸区長】大きく二つあります。一つは、大阪・関西万博の開催地元区である此花区でも、チケット関連で結構な数の問い合わせがあったとのこと。瀬谷区でも、特に年明け以降に区役所へ多くの問い合わせが来る可能性があると考えており、人員体制の整備が課題です。もう一つは交通渋滞やごみ、不審者対策など、地域住民の生活環境に関する懸念です。これらについては協会と連携して対応を検討しています。 【川口議員】チケットの問い合わせ対応について具体策はあるのか。 【山岸区長】コールセンターの充実が基本になると考えています。区としても人員増強を検討するとともに、「広報よこはま」等でチケット購入方法やア
--	---

クセス方法を丁寧に周知するよう局に求めています。

【川口議員】チケットに関しては、「瀬谷区民割はないのか」という質問が多く寄せられている。区にも同じような声が届いているか。

【山岸区長】区民割やシニア割の要望は多くありますが、実施は難しいと協会から聞いています。一方で、開催に係る課題などに対しても前向きに対応してくださっている区民の皆様に対して、チケットの割引という形はできなくても、地元区として何らかの優遇措置をお願いしたいということは、局や協会に働きかけているところです。

【川口議員】開催期間中、特に北部では、夏祭りや防災訓練など、例年やってきたような地域活動がやりにくくなるのではないかなと思うが、地域からの相談状況はいかがか。

【山岸区長】現時点では具体的な相談はありませんが、今後、地域で9年度の行事などを考えていく中で、相談などは出てくる可能性があると思います。

【川口議員】まだ機運醸成などの取組が必要な時期ではあるが、終了後のことについてもゼロではないほうがいいと思う。横浜グリーンエキスポ終了後のまちづくりについてはどのように考えているのか。

【山岸区長】地域の農業振興や環境、防災などはいずれも重要なテーマであると認識していますが、特にレガシーとして重視すべきは環境問題であると考えています。本市では、サーキュラーエコノミーの取組に力を入れていく方針でもありますので、環境問題や環境教育の分野について、横浜グリーンエキスポを契機として、取組を推進していく必要があると考えています。現時点では具体的には決まっていますが、横浜グリーンエキスポのテーマを踏まえ、特に環境教育や資源循環の観点を中心に取り組んでいきます。児童生徒を含めた子どもたちとともに、レガシーを受け継ぐ取組を着実に進めていきたいと考えています。

【川口議員】まだ先の話だとは思いますが、横浜グリーンエキスポは終了しても、瀬谷区や横浜市の取組を継続する必要がある。そのため、「エキスポ後」も見据えた議論を適切な時期に進め、区職員にもその意識を持って取り組んで欲しい。

【山岸区長】今後、瀬谷を郊外部のまちづくりの中心としていく方針も示されていますので、横浜グリーンエキスポを契機として未来につながる施策をしっかりと検討していきます。

【川口議員】「ダブルコア」と言われる状況を踏まえ、横浜市全体としてのま

ちづくりの方向性の中で、横浜グリーンエキスポ後の展開についても適切なタイミングで議論する必要があると考えているので、よろしく願いたい。続いて、「災害時ペット対策」について、これまで犬や猫に関する質問をしてきたが、前回からの変化や在宅避難の意識の高まりについて、現状はどうか。

【内木生活衛生課長】前回からの進捗として、昨年度の区民意識調査で爬虫類を含む犬猫以外の動物の飼育状況や災害時の備えについて把握したところ、ウサギや鳥類、爬虫類の飼育者は犬猫と比べ「特に準備していない」とする割合がやや高い傾向が見られました。このため、情報提供や啓発の必要性を認識しています。

今年度は、動物取扱事業者の協力を得て、ペットの購入時やペット用品購入時の周知啓発を強化します。猫については既に店舗で資料配布を実施しています。

また、災害時の在宅避難については、市のペット対策ガイドラインが本年3月に大きく改訂されました。発災時のフローとして、自宅の倒壊、火災の危険がなければ在宅避難を選択するという内容です。自宅の減災対策についても、具体的に盛り込まれましたので、この旨を周知していきます。

【川口議員】購入時は飼い主の意識が高まる重要な機会であると認識している、このタイミングでの防災意識の啓発が重要だと改めて感じた。

続いて、「飼い主のいない猫対策支援事業」についてだが、区内の状況はどうか。

【内木生活衛生課長】瀬谷区においては比較的穏やかな環境の中で飼い主のいない猫が生活してきた地域が多く、繁殖により増加している実態があると認識しています。不妊去勢手術については、過去5年間で600頭以上が助成対象となり、さらに地域ぐるみの取組により200頭以上が手術を受けている状況で、把握しているだけでも合計800頭以上が地域に存在していることになります。しかし、子猫が生まれたという相談も継続して生活衛生課に寄せられています。ボランティアと連携して対応を進めていますが、依然として課題は大きいと認識しています。

ただ、横浜市全体としては、不妊去勢手術の助成の申請数も年々減ってきていまして、子猫だけが取り残されていて収容しなければいけない、そういった事例も非常に少なくなっており、徐々に対策の効果は出てくるものと考えています。

【川口議員】瀬谷区では、犬よりも猫の飼育頭数のほうが多いという話も聞

いたことがある。こうした啓発の中で猫の飼い主同士のコミュニティ形成の兆しはあるか。

【内木生活衛生課長】高齢犬猫セミナーなどに猫の飼い主も参加されていますが、そこからコミュニティ形成に至っているかについては、現時点で把握できていません。ただし、地域猫活動に関わるボランティアとの連携の中では、飼い主同士のつながりが見られるケースもあります。

【川口議員】継続的な取組の中で、顔が繋がった方々の間で自然発生的にコミュニティが形成されていく可能性もある。引き続き取組の充実をして欲しい。

最後に、「イルミネーション事業」だが、横浜グリーンエキスポ開催期間に合わせた期間延長の可能性についてはどう考えているのか。

【正田区政推進課長】瀬谷駅前のイルミネーションについて、現在、北口から会場方面にかけて横浜グリーンエキスポの装飾を進め、公共空間の整備を行っています。例年は11月から1月までの実施ですが、会場の玄関口としての役割を踏まえ、開催に向けた盛り上げや開催期間中の対応について、関係局と調整しながら、期間延長や運営方法の見直しも含め、検討してまいります。

【川口議員】最後に来年の統一地方選挙において、交通渋滞やアクセスの問題により投票行動に支障が生じることが懸念される。瀬谷区だけ、特殊な状況下で選挙を行わなくてはならない可能性が高く、期日前投票や選挙運動への影響も含め、公正公平な選挙環境の確保が重要であると考えます。この点について、現時点での議論状況はどうなっているか。

【松石総務課長】現時点では区選挙管理委員会において、そのような観点からの議論は行われていませんが、本日いただいたご指摘については、定例会において議論の俎上に上げていきたいと思います。

【川口議員】交通状況や活動制約の中で他区と同等の選挙活動が困難となる可能性もあることから、公正公平の確保にはさらなる工夫が必要であると考えます。区の支援も受けながら、適切な選挙環境の整備に取り組んでいきたい。

【久保議員】横浜グリーンエキスポの開催に向けて、区長として今年度どのように機運を高め、区民の皆様が実際に参加できるような取組を進めていくのか。

【山岸区長】大きな目標としては、区民全体で盛り上げ、会場に足を運んでいただくことだと考えています。そのため、目出しをしているもの以外にも

地道な取組も行っていて、例えば、商業施設やスポーツ施設へのポスター掲示など人が集まる場所でのPRや区内の小中学校、地区センター、ケアプラザなどの公共施設には幅広く掲示を行い、できるだけ多くの方の目に触れるよう工夫しています。また、SNSやローカルメディアの活用、市政広報番組の活用など、多様な媒体でのPRを進めています。加えて、企業や団体が集まる場でのPRも行っています。

こうした取組を通じて話題の広がりを図っています。

【久保議員】区長から具体的かつ前向きな答弁があり、大変心強い。また、先ほど川口議員からの質疑もあり、私も常任委員会で申し上げたが、区民割やシニア割といった点について、多くの声がある。難しさがあることは承知しているが、局からは、「インセンティブについて検討します。」との答弁があったので、その点について期待している。

横浜生活応援クーポンについて、はがきでのご案内ということもあり、「捨ててしまった」「手元にない」という声を、高齢者を中心に聞いている。トラブルや課題の有無も含めて現状の動きはどうか。

【松石総務課長】はがきが到着した4月末からゴールデンウィーク明けにかけて最も相談が多く、その後は減少していますが、現在も一定程度の相談件数で推移しています。5月末時点で約7割が申請済みであり、裏を返せば30%弱の方が未申請という状況です。6月初旬からは電話での商品券申込みの仕組みも開始され、今後は未申請の方に対する勧奨のはがきを発送すると聞いている。こうした送付を契機に初めて気づき、相談に来庁される方も見込まれますので、区としてできる対応を引き続き進めていきます。

【久保議員】本事業は、物価高に直面する市民生活への支援として重要であり、現金給付の必要性を含めて強く申し入れてきた経緯も踏まえ、市民の皆様が確実に利用できるところまで責任を持って取り組むべきだと考える。電話相談の開始や未申請者への勧奨などの取組も含め、区役所として可能な対応を引き続き進めて欲しい。

次に「災害等対策事業」における新規事業のうち、「風水害対応機関連絡会」について、上瀬谷整備事務所との関係を含め、具体的な協議内容と課題を開きたい。あわせて、「(5)隣接自治体との情報共有」について、大和市との広域連携をどのように進めてきたのか、具体的内容を確認したい。

【松石総務課長】出水期に入る6月を前に、5月下旬に風水害対応機関連絡会および大和市との情報連絡会を開催しました。いずれも主に情報交換を目

的としています。風水害対応機関連絡会では、上瀬谷整備事務所を加えた5機関で災害時に連携する関係機関それぞれの体制や保有情報について共有し、実際の発生時に混乱なく連携できるようにすることを主眼に置きました。また、大和市との連携につきましては、境川を挟んだ隣接自治体であることから、避難指示の判断における情報収集の方法や基準、避難場所の運営などについて互いに情報を披歴し合い、情報交換を中心に協議を行いました。さらに、人事異動により担当者が変わっていることも踏まえ、顔の見える関係の構築にも重点を置いたところです。

【久保議員】防災スピーカーの運用について、市で設置したものと区独自で設置したものの運用の違いや、大和市側との運用の整合について、十分に議論したかを確認したい。あわせて、5月から防災気象情報の体系見直しが行われたが、レベル4相当の危険性を示す情報など、最新の制度内容を踏まえた上での議論であったのか聞きたい。

【松石総務課長】スピーカーにつきましては、設置数自体に大和市との間で差があるという現状があります。そのため、現況がどのようになっているのかという点について、意見交換・情報交換を行いました。

また、ご指摘のありました新たな防災気象情報に基づく災害対応につきましては、どのように情報収集を行っているのかという点で、お互いに確認をいたしました。具体的には、気象庁のホームページにある「キキクル」という危険度分布を示すサイトを活用し、土砂災害、洪水、浸水といった危険情報を把握しています。そして、その危険度が高まり、かつレベル4の警報が発表された場合に避難指示を出すという、大まかな考え方は共通していました。一方で、大和市では、私どもが導入していない民間企業の有料サービスにも加入しており、そこからも情報収集を行っているとのことでした。その点については、瀬谷区単独での導入は難しい状況ですが、横浜市全体としては統括本部において導入を検討しているという話も聞いています。今後も、どのようなツールで情報収集を行うかについて、お互いに共有していきたいと考えています。

【久保議員】次に、「地域防犯推進事業」の「まちの安全支援事業」について、本市でも今年度、「スマート防犯一式」として、防犯対策を大きく前進させると聞いている。防犯灯や防犯カメラの設置拡大についても承知しているが、地域の声として、街灯が少なく暗いところがあると聞いている。今年度、横浜市ではGISを活用し、東京電力の電柱に照明が設置されているかどうか

をデータで把握し、暗がりがある場所については行政側から地域に提案する仕組みがあると聞き、実際にマップも確認した。

しかしながら、このマップではカバーされていない場所があり、市民相談でも複数件寄せられている。具体的には河川敷であり、例えば境川、相沢川南側のこども公園、さらに下瀬谷と泉区の境界付近など、いずれも河川に関連する場所であった。

このような河川敷の暗がりについて、今回のGISマップを活用して提案することが可能なのか、また、暗がりの解消をどのように進めていくのかについて確認したい。

【政木地域振興課長】河川敷の暗がりにつきましては、現時点で私どもとして体系的なマップは保有していないのが実情です。一方で、先日5月の区連会において、GISマップを活用した暗がりの情報については、まず情報提供を行ったところです。

ご指摘の河川敷についても、従来から実施しているLED防犯灯の新規設置事業により検討することは可能であると認識しています。ただし、新規設置の申請者は自治会町内会長または連合自治会町内会長となります。これは、防犯灯設置後の日常的な見守りを地域に担っていただくことを条件としているためです。

また、設置場所については、近隣住民の理解を得た上で申請いただく必要があります。加えて私道や私有地、河川用通路などの場合には、その土地所有者の設置の承諾および立入りの承諾も必要となります。

さらに、河川敷には電柱がない場合が多く、その際は新たに鋼管ポールを設置する方法が考えられますが、電線を引き込むことが難しいため、太陽光発電式の防犯灯を検討することになります。ただし、鋼管ポールの設置にはさまざまな制約があり、設置が困難な場所もあります。

そのため、地域の皆様に制度や制約についてご説明し、ご理解をいただきながら進めているところです。

【久保議員】この問題は地域交通にも通じる部分があり、いわば「暗い」という状況に対してどのように対応していくのかを考えると、基本的には自治会町内会を通じて申請を行うことになるかと認識している。しかしながら、河川敷になると、実際にはその場所に居住している方がいないため、駅へ向かう通行人など、多くの人が利用している生活道路のような位置づけになっている箇所もある。実際、河川敷において河川用通路は、実態としては歩道と

ほとんど変わらない。市民の皆様は「あそこは歩道」と認識されている一方で、下水道河川局としては「河川通路」と位置づけている。このような状況の中で申請を行おうとした場合、自治会を通すとなると、複数の自治会にまたがるという課題もあり、地域の方がどこに相談すればよいのか、またどのように取りまとめていくのかが重要になる。本来であれば、行政側が暗い箇所を把握し、「ここは暗い」と指摘していただけるのが望ましいが、現行の仕組みの中で最善を尽くしているという点については理解している。

その上で確認だが、「太陽光発電式」の防犯灯については、電柱や電線が整備されていない場所でも設置が可能であるという理解でよいのか。

【政木地域振興課長】鋼管ポールを設置し、通常のLED防犯灯に代わるものとして太陽光発電式のものを設置するという考えです。

【久保議員】現在さまざまな仕組みの検討が進んでいる中で、どのような選択肢が活用できるのかを含め、所管である市民局に対して、地域にこうしたニーズがあるということをしっかりと伝えることを要望する。

続いて、「健やか瀬谷っ子事業」に記載の新規事業「命を守る思春期応援プロジェクト」について、横浜隼人高校の皆様と連携して進めるとのことだが、どのような意義や目的をもって実施されるのか。

【須山こども家庭支援課長】「命を守る思春期応援プロジェクト事業」につきましては、子どもたちが成長していくうえで、性に関する相談先の周知や正しい情報の提供が不可欠であるという考えに基づいています。

取組は大きく二つございます。一つは、横浜隼人高校の生徒の皆様にご協力いただき、昨年度から意見交換を重ねる中で、性に関する情報や相談先をどのように分かりやすく案内するかについて検討しているものです。具体的には、QRコードを活用し、身近なグッズから相談先にアクセスできる仕組みを検討しており、文房具など学校生活で使用する物などを想定しながら、高校生の発想を取り入れながら検討している段階です。年度内に具体的な物品を決定し、区内の中学生・高校生へ配布する予定です。

もう一つは、相談先の内容について、神奈川県産科婦人科医会の医師等に御協力いただき、適切な案内先を検討している点です。これら二つの取組を組み合わせ、若い世代に必要な情報を届け、相談につながるよう支援してまいります。

【久保議員】最後に一点、横浜グリーンエキスポにも関連する点として、瀬谷駅北口の駐輪について、違法駐輪が多く見受けられるが、これは一時的な

ものなのか。また、「駐輪場収容台数推移」によれば、民営駐輪場が増設されている一方で、放置自転車台数も逡増している。感触としても、自転車が街中に増えている印象を受けるが、工事や整備の影響による一時的なものなのか、また今後の対応方針について確認したい。

【政木地域振興課長】瀬谷駅北口駅前広場につきましては、これまで瀬谷駅北口駅前広場活用推進協議会において駐輪場を設置していましたが、現在は駅前改修工事の影響により、一部利用できないエリアが生じています。そのため、一時的に放置自転車が増加している状況です。

北口駅前広場は自転車等放置禁止区域に指定されていますので、区域内の放置自転車については道路・交通政策局が対応しています。また、工事に伴うものであることから、区民の方からの御意見が寄せられた場合には、発注局である脱炭素・GREEN×EXPO 推進局にも情報を共有し、対応をお願いしているところです。

【久保議員】工事の影響による一時的な状況であるとのことだが、瀬谷駅は横浜グリーンエキスポの表玄関となる重要な駅でもあり、駅を利用して階段を降りた直後に自転車が置かれている状況は、利用者にとって望ましいものではないので、必要に応じて整備と対応を進めていただきたい。

【花上議員】横浜グリーンエキスポの開催まであと9か月となり、開催地である瀬谷区においては、職員の皆さんも日に日に緊張感が高まっているのではないと思うが、現在の準備状況を見て、区長はどのような感想を持っているのか。

【山岸区長】楽しい気持ちもある一方で、カウントダウンの日数が減っていく中で、地元の皆様からは交通渋滞などへのご懸念の声も伺っていますので、開幕に向けた期待と同時に、しっかりと対応していかなければならないという思いの両方を持って取り組んでいます。また、機運醸成やPRについては、これまで申し上げてきたとおり着実に進めています。交通渋滞をはじめとする様々な課題についても、関係局や協会と意見交換を重ねています。地元から寄せられる声についても、会長の皆様への説明の場などで直接お聞きしている状況です。今後も関係局や協会と連携し、不安の払拭に努めるとともに、安心して楽しんでいただける環境づくりにつなげていきたいと考えています。

【花上議員】4月頃から、自治会町内会の総会などに招かれた際に、「横浜グリーンエキスポは現在どうなっているのか」といったご質問を数多くいただ

いた。最近では、チケットのことに加え、まちづくりについてもより具体的なお問い合わせが増えてきている。そのような中で、交通渋滞に関連して、二ツ上橋の工事について聞きたい。現在、工事は急ピッチで進んでいるが、この工事は土木事務所の所管という理解でよいか。

【坂口瀬谷土木事務所長】当該工事の監督につきましては、脱炭素・GREEN×EXPO 推進局の上瀬谷担当が行っており、土木事務所では監督は行っていません。

【花上議員】工事の進捗状況について、土木事務所では把握していないということか。

【坂口瀬谷土木事務所長】上瀬谷担当から定期的に工事の進捗状況の報告を受けています。例えば、相鉄線の下を通るアンダーパスについては、開通に向けて整備が進められており、開催期間中には完全な完成には至らないものの、一時的に車両が通行できる状態を確保する予定であり、その実現に向けて順調に工事が進められていると報告を受けています。

【花上議員】工事の進捗を見ていると、「ダブルコアのまちづくり」と言われる中で、まさに瀬谷がその中心になっていると強く実感している。短期間で街の姿が大きく変化しており、極端に言えば「瀬谷大改造計画」とも言えるような状況。瀬谷区長として、このような急速な変化をどのように受け止めているか。

【山岸区長】ご指摘のとおり、日に日に街の姿が変わっているという実感があります。鉄道についても、少し前のことになりますが、東京や埼玉方面から直通で瀬谷へ来られるようになるなど、交通環境が大きく変化し、今となっては道路整備も含め、まさにカウントダウンと並行して街が変わってきていると感じています。

こうした交通網の整備は、まちの在り様や今後の開発にも大きな影響を与えるものと考えています。横浜グリーンエキスポを契機としつつ、その先も見据えながら、区役所としてのまちづくりの考え方の整理や取組についてもしっかりとやっていく必要があると認識しています。

【花上議員】瀬谷区が全ての事業を担っているわけではないとはいえ、世界的なイベントが瀬谷で開催される以上、瀬谷区を中心に近隣区とも連携しながら万全の体制を整える必要がある。

そのため、旭区や緑区など、会場周辺区との連携は非常に重要だが、具体的に連絡協議会のような枠組みは設けられているか。

【山岸区長】現時点で、区同士の連絡協議会といった正式な枠組みは設けていませんが、特に旭区につきましては同じ開催地として、区長同士で意見交換を行っています。

今後は、関係局や協会とも連携しながら、必要に応じてより具体的な連携体制を強化していく必要があると考えています。

【花上議員】ぜひ、関係区との連携をしっかりと図り、意思疎通を徹底して万全の対応をお願いしたい。

続いて、開催が近づくにつれ、防犯対策の重要性も高まっている。人の往来が増えている中で、警察との連携、とりわけ神奈川県警や瀬谷警察署との連携状況について聞きたい。

【富永副区長】瀬谷警察署とは、以前から防犯や交通安全の分野で密に連携を取っています。横浜グリーンエクスポに関する専門的な警備や交通対応については、主に関係局が県警本部と連携して進めており、その情報は随時共有されています。また、工事車両については、北側から進入して北側へ抜ける経路を徹底しており、区内を無秩序に走行する状況は避けられていると聞いています。工事などに従事する方々の増加に対しても、会場内にコンビニを設置するなど、民間側での対応が進められています。大阪市此花区との情報交換も行い、実際の万博時の対応事例を学ぶなど、区民の安全確保に向けた準備を進めています。今後も警察と連携しながら取り組んでいきます。

【山岸区長】ただいまの説明に補足させていただきます。先ほど花上先生がおっしゃったとおり、防犯の観点は非常に重要だと考えています。防犯のまちづくり推進条例が第2回定例会で議決されており、今後はこれに基づき、より具体的な内容を盛り込んだ防犯プランの策定が進められる見込みです。この防犯条例については、市長が県警の署長会議に出向き、直接説明したと聞いています。防犯プランの策定後は、速やかに瀬谷警察署とも情報共有を図り、密接に連携しながら取組を進めていきたいと考えています。

また、新任の署長とも良好な関係を築けていますので、引き続き丁寧に連携を図りながら、防犯対策を進めていきます。

【花上議員】瀬谷警察署も、防犯対策について積極的に取り組んでいると認識している。私も署長と話したが、非常に理解のある方だと感じている。その上で、現在、人の往来が増えていることから、犯罪発生への懸念から防犯カメラの設置を求める声を私も受けている。区として同様の要望が寄せられているか。

【山岸区長】昨日、返還対策協議会において連長の皆様に説明する機会がありましたが、その場でも瀬谷駅や三ツ境駅への防犯カメラ設置を求める声が上がっていました。私自身もその必要性を強く認識しており、関係局や協会もその意見を聞いています。今後、設置に向けた調整を進めていきたいと考えています。

【花上議員】駅周辺は特に犯罪が発生しやすい状況にあるため、防犯カメラや防犯灯の設置については、商店街を含め地域からも強い要望が出ている。ぜひ前向きに受け止め、対応を進めて欲しい。また現在、工事関係者を中心に多くの方が瀬谷に来訪しており、食事場所が不足しているという声も聞いている。これまで瀬谷は飲食店が少ない地域であり、まちづくりの遅れの一因であったと考えている。

今後、「ダブルコアのまちづくり」の中心となる瀬谷区で、横浜グリーンエクスポやテーマパークの開業により、多くの来訪者が見込まれる中で、飲食施設や宿泊施設の整備は急務であると認識している。特にホテル不足は深刻な課題であり、遠方からの来訪者にとって不便な状況である。今、民間事業者が様々なまちづくりの計画の検討を進めていると聞いているが、行政としても連携を図り、官民一体となって取組を進める必要がある。この点について、区長はどのように考えているか。

【山岸区長】まちづくりは、単一の主体で実現できるものではないと認識しています。デベロッパーなどの事業者に加え、資金面では金融機関、制度面では行政、さらには地域の皆様の協力も不可欠です。

そのため、地域・民間・行政が一体となり、新たなまちとして多くの方を迎えるという共通認識を持ち、連携しながら取り組むことが極めて重要であると考えています。区役所としても担うべき役割をしっかりと果たしていきます。

【花上議員】横浜グリーンエクスポの開催が近づくにつれ、関係者の緊張感も高まっていると感じている。瀬谷区の職員の皆さんは開催地元区ということもあり、緊張も一入かと思うが、一方で区役所に寄せられる期待も大きいことから、自治会・町内会をはじめ、地域の声を丁寧に聴き、対応して欲しい。

次に、会場内での医療・救急対応について聞きたい。夏季の開催ということもあり、けがや体調不良者の発生が想定されるが、現在の準備状況についてはどのようなになっているか。

【日比野災害対策担当部長】会場内の救急・医療対応につきましては、消防

局、旭消防署、瀬谷消防署の三者で定期的に会議を開催し、対応方針を検討しています。また、協会から提供される情報を基に、医療機関とも連携しながら、具体的な対策の検討を今後進めていくという状況です。

【花上議員】ぜひ万全の準備を整えて欲しい。

最後に、ごみ問題について、期間中は 1,000 万人以上の来場者が見込まれ、飲食店舗の出店も増えることから、地域ではごみ処理に対する懸念の声が上がっている。会場から出るごみの処理について、どのような対応を検討しているのか。

【富永副区長】会場内における対応につきましては、基本的には協会のほうで検討していると聞いています。一方で、私どもに多く寄せられている声として、会期中は夜間まで開場しており、会場から徒歩で帰宅される来場者が駅までの通り道でごみを捨ててしまうのではないかと懸念が多くあります。この点については、資源循環局においてもごみ対策を重視しており、開幕する今年度及び令和 9 年度予算でも、喫煙の問題を含め、ごみ対策について検討していると認識しています。

【花上議員】資源循環局の瀬谷事務所として、どのような対応を考えているのか。

【丸山資源化推進担当課長】現在、機運醸成などにも取り組んでいますが、会場周辺の地域におけるポイ捨てを含むごみ問題について、区民の皆様にご迷惑がかからないよう対策を講じる必要があると考えています。具体的には、環境事業推進委員や美化パートナーの皆様のご協力に加え、清掃業務の委託についても予算を確保しており、駅周辺から会場までの清掃活動を日常的に実施していく必要があると考えています。シャトルバスの発着場所や動線についての情報を十分に把握したうえで、どのような課題が想定されるのかを検討していきます。さらに、駅から会場までの主な道路上に、ごみ集積場所が約 20 か所存在しており、来場者の移動に伴う混雑と収集時間帯が重なる可能性があります。そのため、収集時間帯の見直しについても事務所内で検討しており、早朝収集の導入なども視野に入れていきます。会場周辺の地域の皆様にご迷惑をおかけしないよう、収集事務所として適切に対応していきます。

【花上議員】会場内のごみについては協会が対応するという認識で良いか。

【丸山資源化推進担当課長】はい。会場内のごみにつきましては、事業系ごみとして協会が対応するものと認識しています。私どもとしては、会場外、

すなわち地域におけるごみ集積やポイ捨て問題への対応に取り組んでいきます。

【花上議員】役割分担を明確にしたうえで取り組んでいるということか。

【丸山資源化推進担当課長】その通りです。

【花上議員】今回の横浜グリーンエキスポは、横浜で開催される国際イベントで、これまでに経験のない大規模なイベントでもある。現在はまさに、試行錯誤を重ねながら準備を進めている段階であり、「走りながら考え、走りながら準備を進める」状況にあると感じている。成功させるためには、残り9か月の準備期間をいかに充実させるか、その心構えがとても重要である。地元瀬谷区の役割も非常に大きい中で、その責任者として、区長はどのような覚悟を持っているのか。

【山岸区長】今回の横浜グリーンエキスポは、国として取り組む国家的な事業であり、さらに世界中から多くの来場者を迎えるイベントです。また、この開催は今後の瀬谷区のまちづくりにも大きな影響を与えるものと認識しています。楽しみながら取り組むことも大切ではありますが、同時に必ず成功させる、しかも安全・安心に成功させなければならないと考えています。そのため、関係局や協会のみならず、警察、医療機関などあらゆる関係機関と連携しながら、今後の準備を着実に進めていきます。開幕までの準備期間はもちろん、開幕後もさまざまな課題が生じる可能性がありますが、その都度最善の対応を行い、多くの皆様に安心して来場していただき、楽しんでいただけるよう全力で取り組んでいきます。そのために強い決意を持って臨んでいきます。

【花上議員】地域の皆様からは、先ほども話題にありましたが、チケットについて、「地元なのだから安く購入できないのか」「シニア割はないのか」といった声もあるが、「イベント会場で瀬谷区の方々の出番を優先的に作ってもらえないか」といった地元の方々の思いも数多く伺っている。私もそのお気持ちはもっともだと思う。もっとも、この催しは横浜市ではなく国が関与する国際イベントなので、柔軟な対応が難しいという点に、非常にもどかしい思いも感じている。「なぜこのようなことができないのか」「地元でありながら様々な負担を受けるのに、なぜ優遇されないのか」といった区民の皆様の声は理解できるので、融通が利かないのは大変残念だと感じるところだ。そうした状況を踏まえつつも、できる限り地元の要望に沿うよう、最後まで働きかけを続けて欲しい。難しい点は多々あるかと思うが、区長として横浜

グリーンエキスポを成功に導く決意について聞きたい。

【山岸区長】区でも同様に、「なぜチケットの優遇などができないのか」といった声を日々いただいています。そのような中で、市としては区民デーのような日を設けることも検討していると聞いています。区からも関係する局や協会に対し、「瀬谷区や旭区については、区民デーの日数や時間を少しでも拡充できないか」とお願いをしています。その場では前向きなご意見もいただいています。最終的にどのような形になるかはまだ分からない状況です。ただ、そうした形での配慮や優遇については、引き続き強く要望していく考えです。

いずれにしても、この横浜グリーンエキスポは瀬谷の未来のまちづくりに大きな影響を与える重要な事業であり、必ず成功させなければならないという強い思いを持っています。区役所職員はもとより、議員の皆様、民間の方々とも連携しながら、区長として先頭に立って取り組んでいきます。

【花上議員】これまで、様々な状況に対応するための取組について提案してきたが、この事業を成功させるためには、地域住民の皆様、行政、民間企業、そして関係者全体が一体となることが不可欠であると考えている。

例えば交通面では、瀬谷駅や三ツ境駅が横浜グリーンエキスポの拠点駅となることは明確であるにもかかわらず、特急列車の停車が実現していない点に強い危機感を持っている。私自身も相鉄本社に赴き、繰り返し要望してきたが、現時点では明確な前向きな回答が得られていない。

相鉄側としては、期間限定のイベントであることなどを理由にしているようだが、私は横浜グリーンエキスポ終了後にはテーマパークの整備や年間 1500 万人規模の来訪者を見込む計画もあることから、「将来的にも特急が停車しないというのはあり得ないのではないか」と強く訴えている。会期中だけでも 1000 万人を超える来場者が見込まれる、将来的には「ダブルコアのまちづくり」として、テーマパークができる、物流センターができる、東名高速道路のインターチェンジができる、そのような大きなまちの変貌が見込まれる中で、その拠点となる駅を特急が通過してしまう状況は、利用者目線で考えたら理解しがたい。

相鉄を愛する者のひとりとして、今も利用者目線での判断を改めて求めている状況である。この点について区長はどのように考えているか。

【山岸区長】私自身も相鉄を利用していますが、多くの来場者が特に瀬谷駅を中心に利用されるという見込みですから特急が停車してほしいという思い

	はあります。 【花上議員】最後に、横浜グリーンエキスポの成功には、官民が一体となり、地域の皆様も含めた総合力を発揮することが重要である。イベント自体は6か月間で終了するが、その後には瀬谷の大規模なまちづくりが進んでいくことが見込まれており、横浜の中でも大きな役割を担う地域になることは明らかである。だからこそ、それにふさわしいまちづくりを進めていく必要がある。我々議会としても全力を尽くしていくので、瀬谷区役所とも連携し、「瀬谷でよかった」と思える地域づくりを実現していきたい。 <議題3> 【久保議員】図書館のリノベーションは着実に進めていただきたいが、一方で瀬谷図書館が将来的にも現地で継続するのかについては、さまざまな意見があると認識している。現状の敷地や規模が手狭であることから、子ども向けスペースの拡充を求める声や、さらなる狭あい化への懸念も見受けられる。こうした区民の声を踏まえ、今後の図書館の在り方については、引き続き検討が必要であると考えます。
備 考	